

**製品名: GRIA2 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM81886**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2b
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	99kDa

**抗原情報**

遺伝子名	GRIA2
別名	GLUR2; GLURB; GluA2; HBGR2; GluR-K2
遺伝子 ID	2891.0
SwissProt ID	P42262
免疫原	大腸菌で発現したヒト GRIA2 (AA: 35-175) の精製された組み換え断片。

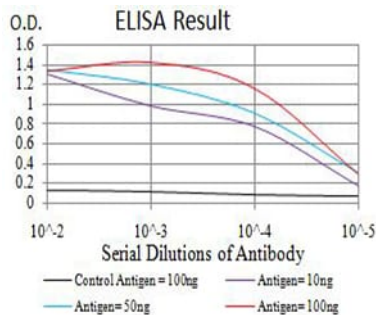
**背景**

グルタミン酸受容体は、哺乳類の脳において主要な興奮性神経伝達物質受容体であり、様々な正常な神経生理学的プロセスにおいて活性化されます。この遺伝子産物は、 $\alpha$ -アミノ-3-ヒドロキシ-5-メチル-4-イソキサゾールプロピオネート (AMPA) に感受性のある

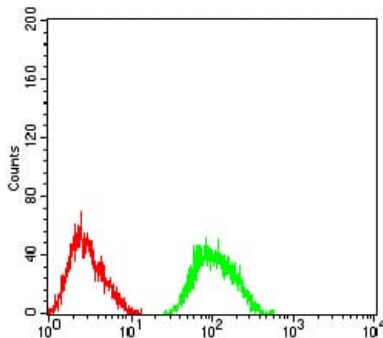
グルタミン酸受容体ファミリーに属し、リガンド活性化カチオンチャンネルとして機能します。これらのチャンネルは、GRIA1~4という4つの関連サブユニットから構成されています。この遺伝子によってコードされるサブユニット (GRIA2) は、第2膜貫通ドメイン内でRNA編集 (CAG→CGG; Q→R) を受け、その結果、チャンネルはCa(2+)を透過できなくなっていると考えられています。ヒトおよび動物を用いた研究では、pre-mRNA編集は脳機能に不可欠であり、GRIA2のQ/R部位におけるRNA編集の欠陥は、筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の病因と関連している可能性があることが示唆されています。この遺伝子では、選択的スプライシングにより、異なるアイソフォーム (シグナル伝達特性が異なるフリップ アイソフォームとフロップ アイソフォームを含む) をコードする転写バリエーションが生成されることが知られています。

## 研究分野

## 画像データ



黒線: コントロール抗原 (100 ng) ; 紫線: 抗原 (10 ng) ; 青線: 抗原 (50 ng) ; 赤線: 抗原 (100 ng)



GRIA2 マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した SK-N-SH 細胞のフローサイトメトリー分析。